

札医大病院広報誌



C O N T E N T S

病院長あいさつ	2
お知らせ	
新任教授の紹介	3
当院へのご支援に感謝申し上げます	3
医療トピックス	
消化器疾患に対する新規手術支援ロボットの導入	4
内視鏡的手縫い縫合法について	6
予後を改善できる「がんゲノム医療」	7
最新手術支援ロボット「ダビンチ SP サージカルシステム」による経口的咽頭・喉頭がん手術の開始について	8
各種ご案内	9.10

■ 札幌医科大学附属病院の理念 ■

札幌医科大学附属病院は、患者さんに信頼、満足、安心していただける安全で質の高い医療を提供するとともに、高度な先端医療の研究・開発に取り組み、人間性豊かな優れた医療人の育成に努め、北海道の地域医療に貢献することを目的とします。

■ 札幌医科大学附属病院の基本方針 ■

- 1 医療サービスの向上を図り、患者さんに安全な医療を提供します。
- 2 患者さんの人権を尊重し、十分な説明と同意のもとに医療を行います。
- 3 国内外に評価される高度な診療や臨床研究を積極的に行います。
- 4 教育を重視し、人間性豊かで信頼される医療人を育成します。
- 5 地域との連携を密にし、地域における医療、保健、福祉を支援します。

2024.2. VOL **28**

札幌医科大学附属病院 公式ウェブサイト [URL]

<http://www.sapmed.ac.jp/hospital>

病院長挨拶

ごあいさつ

札幌医科大学附属病院 病院長 **土橋 和文**



新たな病院広報誌発刊にあたり附属病院長として御挨拶を申し上げます。

札幌医科大学附属病院は、「患者さまに信頼、満足、安心していただける安全で質の高い医療を提供するとともに、高度な先端医療の研究・開発に取り組み、人間性豊かな優れた医療人の育成に努め、北海道の地域医療に貢献すること」を基本理念としています。これまで高度医療に資する研究と実践・提供し、日本各地・海外で活躍する多くの医師・看護師等の医療人を輩出して参りました。

100年の一度類を見ない広域・長期間の複合災害である「コロナ禍」では卒業生・研修修了者が無二の存在として感染症対策と診療者として活躍、加えて情報発信と行政シンクタンク・こび丸（コビットチェイサー）の開発など存分に使命を果たしてきました。附属病院では1,200名余の新型コロナウイルス感染症患者の療養に、ほぼ全職員が携わってまいりました。「インフォデミック」に加担することもなく自己恐怖に耐え、高貴な使命感のもと淡々と職務に従事する姿には、幾度となく励まされました。この際、「一次情報を収集分析、的確に捉え備える」との培われた臨床力が随所に発揮することができました。改めて、諸氏の粉塵のご活躍に感謝と敬意を申し上げます。

さて、約40年ぶりの附属病院改築はコロナ禍にあって工程変更を余儀なくされていますが「手術室および集中治療室の高機能化と大幅な拡充、階層ごとの疾患センター、特殊先端医療を賄う施設整備」など、着実に進んでいます。大学キャンパスの改築と併せて、「医療の学の間」に相応しい景観となりました。今回も、広報誌にその一部を報告させていただきました。皆様には工事による運用病床の減数などご迷惑をおかけします。併せてご協力とご理解をお願い申し上げます。毎年、お願い致しますことですが、皆様の「お声がけ」は、私どもにとっては大切な励みであります。何卒、忌憚なき意見と提言を頂戴いたしたくお願い申し上げます。

◆病院長紹介

【出身大学】

札幌医科大学（昭和56年卒）

【所属学会・免許資格等】

日本内科学会会員・認定医・専門医・指導医、北海道地方会評議員

日本循環器学会会員・認定医・評議員、北海道地方会幹事

日本冠疾患学会会員・理事、日本心臓病学会会員・FJCC、日本心電図学会会員

日本超音波医学会会員、日本不整脈学会会員・評議員、日本高血圧学会会員

日本インターベンション学会会員および日本心血管カテーテル治療学会・評議員（平成17年まで）・指導医（132号）、

日本透析療法学会会員、日本老年医学会・評議員、日本糖尿病学会、日本臨床スポーツ医学会など

令和4年度（2022年度）診療実績

入 院	入院延患者数	202,724人
	1日平均患者数	555.4人
	新規入院患者数	17,886人

外 来	外来延患者数	382,824人
	1日平均患者数	1,575.4人
手 術	手術件数	7,072件
	1日平均手術件数	29.1件

お知らせ

■ 新任教授の紹介



整形外科 教授 寺本 篤史

2023年10月1日付けで札幌医科大学医学部整形外科学講座教授 を拝命いたしました。

整形外科の診療分野は幅が広く、部位では脊椎、手、肘、肩、足、膝、股関節、疾患では外傷、変性疾患、腫瘍、スポーツ、小児整形など多岐にわたり、専門分野が細分化される傾向にあります。札幌医科大学整形外科は全ての運動器疾患に対する診療体制を整え、保存治療から手術まで幅広く、かつ専門的最先端治療を提供しております。

脊髄損傷患者に対する神経再生医療（自家骨髄間葉系幹細胞静脈内投与：ステミラック注）は良好な治療成績が得られ、全国から症例が集まっています。また、関節や脊椎に対する低侵襲手術を積極的に取り組み、アスリートを中心としたスポーツ診療も行っております。

「知識」「技術」「創意」「人間力」を備えた実力ある整形外科臨床医の育成を目指し、北海道における整形外科診療の発展に 尽くして 参りますので、何卒 よろしくお願い申し上げます。

【出身大学】

札幌医科大学（平成11年卒）

【所属学会】

日本整形外科学会（代議員）、日本足の外科学会（評議員）、日本スポーツ整形外科学会（理事、代議員）、日本臨床バイオメカニクス学会（評議員）、日本小児整形外科学会（評議員）、日本運動器科学会（評議員）、日本膝関節学会（評議員）、日本臨床スポーツ医学会、日本人工関節学会、日本靴医学会、日本骨折治療学会、日本リハビリテーション医学会、東日本整形災害外科学会（評議員）、北海道整形災害外科学会（評議員）、米国整形外科基礎学会、アメリカ足の外科学会、国際関節鏡・膝関節・整形外科スポーツ医学会、アジア足の外科学会、アジア太平洋整形外科学会、国際整形災害外科学会

【免許・資格等】

日本整形外科学会（専門医、認定スポーツ医）、日本足の外科学会（認定医）、日本スポーツ協会（公認スポーツドクター）、日本人工関節学会（認定医）

■ 当院へのご支援に感謝申し上げます

北海道を代表するお菓子メーカーの株式会社ホリ様より、附属病院の入院患者様へ「夕張メロンゼリー」1,000個をご寄贈いただきました。

ゼリーにはひとつひとつかわいいシールが貼ってあり、クリスマス仕様の季節感あふれるプレゼントとなりました。

本学及び附属病院へたくさんの企業様から医療支援物資、食料品等の寄付をいただいております。ご支援いただいたみなさま方には心より御礼申し上げますとともに、今後の益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。

当院はこれからも患者様に、安全で質の高い医療を提供するため、職員一同、力を尽くしてまいる所存です。今後ともご高配を賜りますようお願い申し上げます。



医療トピックス

■ 消化器疾患に対する新規手術支援ロボットの導入



消化器・総合・乳腺・内分泌外科 教授 竹政 伊知朗

当科では消化器疾患に対してロボット支援手術を積極的に導入しています。2016年に直腸がんに対して導入してから胃がん、結腸がん、肝がん、膵腫瘍とその適応をひろげ、年々その症例数は増加しています。大腸がんのうち直腸がんのほぼ全例、結腸がんの7割以上にロボット支援手術を行っています。特に直腸がんに対するロボット支援手術数は全国でも5番目に多いハイボリュームセンターです。さらに当院では新たな手術支援ロボットを全国に先駆けて導入していますので、私たちのロボット支援手術に対する取り組みを紹介します。



【新たな手術支援ロボットhinotori（ヒノトリ）サージカルロボットシステム】

2022年10月にhinotori（ヒノトリ）サージカルロボットシステムが当院に導入されました。株式会社メディカロイド（本社：神戸市）が開発した国産初の手術支援ロボットで、2020年8月から泌尿器科領域での手術で使用されてきましたが、消化器外科領域で保険適用となったことをうけて、道内で初めて導入し、2022年11月に世界で第1例目の大腸がん手術を実施しました。導入から1年以上が経過し、これまでに約40例の大腸がん手術をhinotoriサージカルロボットシステムで実施してきました。



Hugo RASシステムを用いたロボット支援手術

医療トピックス

【Hugo™ RAS（ヒューゴ手術支援ロボット）システム】

HugoRAS（ヒューゴ手術支援ロボット）システムはメドトロニック社（本社：アイルランド）の手術支援ロボットです。2022年11月に泌尿器科領域、婦人科領域で保険適用となっていました。2023年7月に消化器外科領域に保険適用となりました。当院では同月に導入し、日本で1例目の大腸癌手術を実施しました。この手術支援ロボットの特徴は独立した4本のアームを使用するため、従来の手術支援ロボットとは異なりアームの位置調節が可能で、症例や患者さんに応じて柔軟な配置が可能となります。また術者の操作画面を複数のスタッフが同時に確認できるオープンコンソールとなっており、コミュニケーションを容易にとることが可能です。

【da Vinci（ダヴィンチ SP Single Port= 単孔式）サージカルシステム】

「da Vinci（ダヴィンチ SP Single Port= 単孔式）サージカルシステム」はインテュイティブサージカル社（米国）の手術支援ロボットです。世界で最も普及している da Vinci（ダヴィンチ）サージカルシステムの最新のものです。これまでに導入されてきた手術支援ロボットはマルチポートシステムと呼ばれ、複数の手術創が必要でした。今回導入された da Vinci SP システムはシングルポートシステムで、1本のカニューラと呼ばれる筒からカメラと3本の鉗子などの機器を体腔内に挿入して手術を行うことができます。最小で1つの切開創で手術を行うことも可能となり、創部の痛みなど患者さんの負担を軽減することが期待されます。当院では2022年11月から保険適用となった da Vinci SP システムを2023年4月に導入し、日本で第1例目となる大腸がん手術を実施しました。

単孔式手術はお臍2.5cmの傷で全ての操作を完了する術式で整容性と低侵襲性に極めて優れており、精緻で自由度の高いロボット単孔式手術が可能となりました。

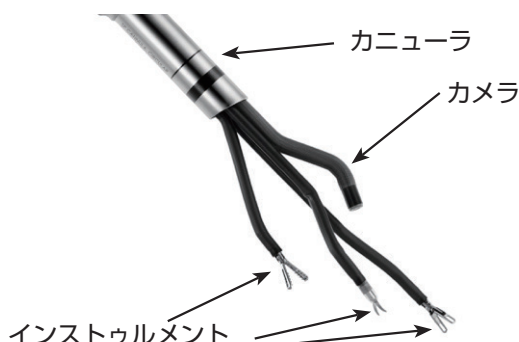
これまでに導入されている2台のda Vinci(ダヴィンチ) Xiサージカルシステムとセンハンス・デジタルラパロスコピー・システム、そして今回紹介した3つの新規手術支援ロボットとあわせて6台体制で診療にあたっています。それぞれ適応となる疾患領域が異なりますので、患者さんの病状に応じて適切な手術支援ロボットを選択することができ、より安全で高度な医療を提供していきます。



da Vinci SPを用いたロボット支援手術



da Vinci SPのペイシェントカート



医療トピックス

■ 内視鏡的手縫い縫合法について



消化器内科 / 消化器先端内視鏡学講座 特任助教 **山川 司**

現在リンパ節転移リスクのない胃や大腸の早期癌に対しては内視鏡的切除（内視鏡的粘膜下層剥離術）が標準治療となっており、当科でも多くの患者さんに内視鏡治療を受けて頂いています。内視鏡治療は外科手術に比べ身体的負担は少なくなりますが、病変が切除された後の創部は人工的な潰瘍となるため、治療後は柔らかい食事から開始し自然にゆっくり潰瘍が治癒するのを待つ

ことになります。通常潰瘍が治りきるまでには数週程度の時間がかかるため、その間潰瘍底の血管から出血し時に緊急での内視鏡的止血術を要する場合があります。特に併存疾患のため抗血栓薬を内服されている患者さんでは通常よりも出血率が高くなります。再出血を少なくするためには創部を閉じること（縫縮）が有用とされ、内視鏡用のクリップでの縫縮も試みられてきましたが、クリップだけでは把持力が弱くすぐに外れてしまうことから、内視鏡単独での創部の縫縮は非常に困難なものでした。外科手術で行うような強固な創部縫縮ができれば理想ですが、内視鏡では構造上の制約から通常1本の処置具しか使用できないため外科医が片方の手しか使えない状況によく例えられます。

2022年に本邦で新たに内視鏡的手縫い縫合専用処置具SutuArt®（図1、オリンパスメディカルシステムズ）が販売され、内視鏡のみで縫合糸を用いた創部縫縮が可能となりました。SutuArt®は先端部の回転操作を可能とした把持鉗子で、針付き縫合糸を用いて外科手術で行うように創部を縫うことができます。（図2）特に早期胃癌の治療後では創部を縫縮することで食物や胃酸の刺激から保護することができるため術後出血の予防に期待されていますが、当科でも抗血栓薬内服者等の再出血のリスクが高い症例に限ってSutuArt®を用いた創部の縫縮を行っており（図3）、より安全・安心な内視鏡治療を目指して、日々最新の治療に取り組んでいます。



図1 内視鏡の手縫い縫合専用処置具SutuArt®（オリンパスメディカルシステムズ）
合成吸収糸V-Loc 180クローチャーデバイス（Covidien社）

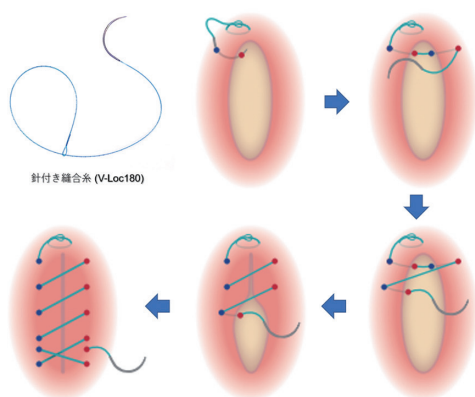


図2 内視鏡的手縫い縫合のシエマ(オリンパスマーケティング株式会社、ディスプレイ保持針器を用いた内視鏡的手縫い縫合法より引用)

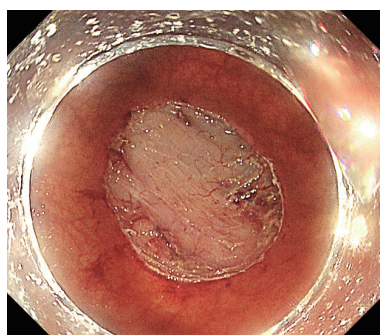
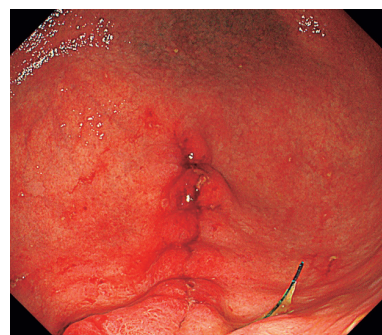


図3 早期胃癌の内視鏡治療後の潰瘍底



内視鏡的手縫い縫合後

■オリンパスメディカルシステムズより画像提供

医療トピックス

■ 予後を改善できる ‘がんゲノム医療’



腫瘍内科 講師 高田 弘一

がんゲノム医療とは、がん細胞のゲノム情報から治療薬を選択し、がんの治療成績を向上させるための医療で、遺伝子変異に基づいた個別化医療です。がん細胞の遺伝子変異を網羅的に検出するがん遺伝子パネル（CGP）検査が2019年6月に保険収載されました。当院では、腫瘍内科・遺伝子診療科・ゲノム医科学部門・病理診断科と協働し、2020年1月より保険診療下でのCGP検査を開始しています。当院のCGP検査件数は年間180例を超え、全国で有数のハイボリュームセンターです。この実績が高く評価され、2023年4月から当院は厚労省よりがんゲノム医療拠点病院に指定されました。

図1にがんゲノム医療診療フローを提示します。標準治療がない、または無効（終了見込み）の固形がん患者がCGP検査の対象です。はじめに主治医が、がんゲノム外来にコンサルテーションします。腫瘍内科医がその適応を判断した後、患者さんががんゲノム外来を受診する流れです。当院のがんゲノム外来最大の強みは、医師のみではなく認定遺伝カウンセラー® とがん看護専門看護師が同席し、患者さんのさまざまな疑問・不安に対してその場で対応できる体制を整えているところです（図2）。CGP検査で検出された遺伝子変異をエキスパートパネル（図3）で医学的解釈と臨床的意義づけを議論し、主治医に推奨する治療方針を提案します。実際に、GP検査の結果、遺伝子変異に基づいた治療を施行された患者さんの予後は良好です（図4）。私たちは、CGP検査をがん患者さんの予後を改善可能な診療ツールと位置づけ、がんゲノム医療の臨床実装を進めています。札幌医大からがんゲノム医療の有用性を発信し、同医療の地域への普及を目指して努力を継続していきます。



図1 がんゲノム 医療診療フロー



図2 がんゲノム外来



図3 当院 エキスパートパネルの様子

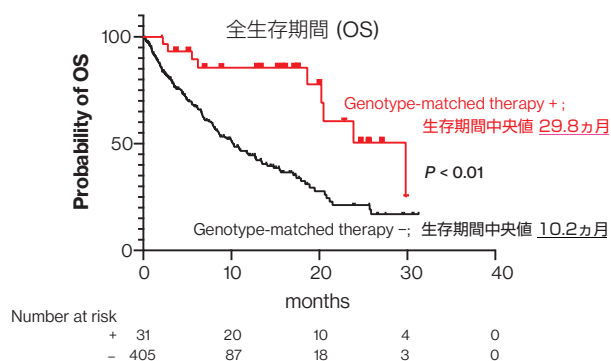


図4 遺伝子変異に基づいて施行されたがん薬物療法の治療成績

医療トピックス

最新手術支援ロボット「ダビンチ SP サージカルシステム」による 経口的咽頭・喉頭がん手術の開始について



耳鼻咽喉科 助教 垣内 晃人

当診療科では、最新の手術支援技術を駆使することで、頭頸部がん患者様により良いケアを提供することに尽力しています。このたび、最新手術支援ロボット「da Vinci（ダビンチ）SP Single Port= 単孔式）サージカルシステム」を導入し、東日本で初めてとなる咽頭がんの手術を2023年5月に実施しました。この手術は、患者様の安全を最優先に考慮しながら、無事に成功しました。

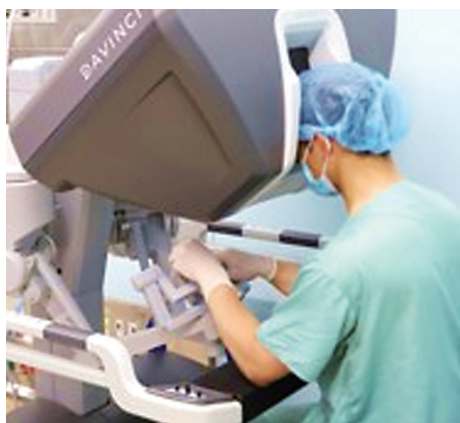
咽頭がん・喉頭がんの従来の治療法では、手術経皮的、化学放射線療法が主体ですが、侵襲の大きさや機能障害が課題でした。経口的ロボット支援手術が導入されたことにより、低侵襲で後遺症の少ない手術が可能となりました。しかし従来のロボットでは複数のロボットアームが必要となるため、狭い口腔内からの手術アプローチに困難な面がありました。



da Vinci SP サージカルシステムによる手術の様子

今回、da Vinci SP サージカルシステムの導入により複数のアームの基部を1本に集約する事が可能となり、これらの問題を大幅に軽減することが期待されます。特に、深部病変（下咽頭、喉頭、舌根など）へのアプローチが可能となり、治療の選択肢が広がりました。

本邦における経口的ロボット支援手術は、2018年8月に適応（薬機承認）となり、2022年4月からは保険適応となっています。当科では2022年1月からこの手術を実施し、2023年12月までに18例（うちダビンチSP7例）の手術を行っています。



執刀する黒瀬准教授

対象となる疾患には、早期の中咽頭がん、下咽頭がん、声門上がん（喉頭がんの一部）が含まれます。これらは開口障害や嚥下障害がなく、深部組織（頸動脈、骨組織など）への浸潤可能性が低い症例に適しています。また、まだ保険外診療ではありますが甲状腺腫瘍に対するダビンチSPを用いたロボット支援手術に関しても準備が進行しております。本治療を希望される場合には主治医の先生とご相談の上、当科に受診ください。

医療トピックス

札幌市内がん診療連携拠点病院「学校がん教育」に講師として医師および看護師を派遣しました

令和5年7月に札幌市内の中学校へ医師を（図1）、12月に札幌市内の小学校へ看護師を（図2）「学校がん教育」の講師として派遣いたしました。

中学校でがんの仕組みやその予防等について授業を行いました。小学校ではがんの仕組みや喫煙の害等について授業を行いました。生徒および児童の皆さんはとても真剣に授業を聴いており、講義中や講義終了後には積極的に質問があり、大変大盛況に終わりました。

当院では、がんに関する正しい知識の普及啓発を行うことを目的として、札幌市内がん診療連携拠点病院「学校がん教育」連絡会議を通じて依頼があった場合、当院の腫瘍診療センターから講師を派遣します。



図1 中学校での授業の様子
(消化器内科学講座 佐々木 茂 准教授)



図2 小学校での授業の様子
(医療連携福祉センター副センター長
小野 聡子 がん看護専門看護師)

各種ご案内

札幌医科大学附属病院 ウェブサイトについて

当院Webサイトでは、各診療科の診療内容、関連部門の業務内容および各種ご案内などの情報を公開しています。

外来担当医表は、診療科毎に加えて一覧表を公開しています。なお、講義・学会・出張などの理由により担当医師が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

URL <https://web.sapmed.ac.jp/hospital/section/index.html>

札幌医科大学附属病院

[外来のご案内](#)
[入院のご案内](#)
[診療科・部門](#)
[病院概要](#)
[採用・募集](#)
[臨床研修](#)
[医療機関のかた](#)

[トップ](#)
[診療科・部門](#)

診療科・部門

[ページ内目次](#)
[各診療科案内](#)
[中央部門案内](#)

各診療科案内

[診療科別診療内容一覧](#)

[外来診療受付一覧](#)

[外来担当医一覧表\(印刷用\)](#)

内科

消化器内科	診療科概要 講座のホームページ	外来担当医表	スタッフ紹介
免疫・リウマチ内科	診療科概要 講座のホームページ	外来担当医表	スタッフ紹介
循環器・腎臓・代謝内分泌内科	診療科概要	外来担当医表	スタッフ紹介



札幌医科大学のコミュニケーションマーク

交通のご案内

- ☐ 地下鉄：東西線 西18丁目駅下車
(5、6番出口から徒歩約3分)
- ☐ 市 電：西15丁目駅下車 (徒歩約3分)
- ☐ バ ス：札幌駅から (JR北海道バス)
 - ・ 啓明線[51]「医大病院前」下車
 - ・ 啓明線[53]「南3条西16丁目」下車桑園駅から (JR北海道バス)
 - ・ 桑園円山線[桑11]「医大病院前」下車



※本院の駐車場は大変混み合います。ご来院時はできるだけ公共の交通機関をご利用いただくことをお勧めいたします。



札幌医科大学附属病院
SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL

E-mail: kouhou-byouin@sapmed.ac.jp (ご意見・ご感想をお寄せください)

ウェブサイト: <http://web.sapmed.ac.jp/hospital/>

編 集：札幌医科大学広報委員会病院広報部会